

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年3月号 通巻51号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## アナグマとはどういう動物？

### 東京都23区内で生息確認！



#### タヌキ

イヌ顔。夏毛だと毛が短く、全身もイヌっぽく見える。耳は丸みのある三角。クマのような丸耳ではない。



#### アナグマ

タヌキよりも低く、平べったい外見。鼻は長いがいヌっぽくはない。目のまわりの黒模様もタヌキと異なる。耳は小さい。

東京都23区にタヌキ、ハクビシンが生息していることは既によく知られています。少数ながらアライグマが生息していることもわかっています。しかしアナグマとキツネは確実な目撃情報がなく、現在は生息していないものと考えられていました。

### アナグマがいた！

2013年1月、大田区在住の方からタヌキとハクビシンの目撃情報が寄せられました。ところが添付された写真を見ると、ハクビシンだという写真はどれも変なものでした。ガラス越しに撮ったためにぼんやりしているのですが、妙に横幅があり、顔の様子が白地に黒で、鼻がピンク色ではありません。これはハクビシンではありません。これは、まさか…アナグマとしか考えられないのでした。地図で現場付近の植生、地形などを調べてみると、確かにアナグマ好みの環境のようです。

アナグマは「クマ」と名前がつきますがイタチ科に属する動物です。

ぼつたりした体格からはイタチを想像することもできませんが。

「アナ」とは穴を掘って巣穴にすることに由来します。巣穴は普通、斜面に掘られます。縦穴よりも横穴の方が巣としては利用しやすいからです。足の爪は大きく、穴掘りに適しています。タヌキがその巣穴をちゃっかり利用することもあることから「同じ穴のムジナ」という言葉ができました。ムジナはタヌキまたはアナグマを指す名称です。両者は外見や生態が似ているため、昔からよく混同されていました。ムジナという名称も地域によってアナグマのことだったりタヌキのことだったりしました。

アナグマもタヌキと同じく夜行性で雑食です。体の大きさもだいたい同じぐらいです。

東京都23区にアナグマが生息していることがわかったのは大発見です。もしかすると、これまでの目撃情報の中にもアナグマを他の動物と誤認した例があったのかもしれない

ん。データベースの過去の記録を見直す必要がありそうです。

### 都会で生きのびれるのか？

23区内に生息するアナグマの数はおそらく多くても数十頭程度でしょう。生息地は連続しておらず、分断されているのも確実で、このままでは絶滅してしまう可能性が高いでしょう。しかし、そもそも都会はアナグマにとっては住みやすい場所でないのも確かなことです。絶滅するのは仕方がないことなのか、保護すべきなのか。保護する必要があるならば何をすればいいのか。多くの人にぜひ考えてほしいのです。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>